

製品安全対策優良企業表彰における 管内受賞企業の概要と優れた取組の紹介

中部経済産業局 産業部 製品安全室

中部経済産業局管内の受賞企業

中部経済産業局管内の受賞企業

優良賞

【大企業 製造・輸入事業者部門】

- ◆ 貝印株式会社 p.5
- ◆ 株式会社パロマ p.6

【中小企業 製造・輸入事業者部門】

- ◆ 柏木工株式会社 p.7
- ◆ 日進医療器株式会社 p.8

特別賞

【企業総合部門】

- ◆ アール・ビー・コントロールズ株式会社 p.9



各受賞企業の概要

1. 貝印株式会社

受賞理由

☑ テキストマイニングツールを活用した顧客の声（VOC）の分析と改善

窓口への問い合わせやSNS投稿などからVOCを広く収集し、テキストマイニングツールを活用して肯定的な評価や安全上の懸念に繋がる情報を洗い出すことで、設計開発やリコールの検討に反映させている。

☑ 国内外の製品事故情報の収集と設計開発への応用

自社製品だけでなく、国内外の事故情報を広範囲かつ継続的に収集し分析を行うとともに、情報を社内で共有し、製品開発にも生かしている。

☑ マイスター制度を通じた製品安全文化の構築

全ての社員が「刃物について語る・説明できる」ことを目的とした「マイスター制度」を設けている。製品の正しい使用方法についての知識を習得した有資格者は、販売店への研修、取引先店頭での消費者啓発において製品安全文化の構築に貢献している。



2. 株式会社パロマ

受賞理由

❑ 過去の事故を踏まえた安全設計と施工における徹底した安全対策

経営トップの「『製品の誤使用』は危険な言葉である」という認識に基づき、事故原因を徹底して検討し、設計対策に誤使用防止を図っている。また、誤設置や修理による事故防止のため、全国8か所の研修センターを活用し、幅広く取引先に対し安全教育を行い、独自の社内資格制度を活用して施工業者への教育を徹底している。

❑ リコールを前提として製品事故や不具合を検証する仕組みの整備

製品事故の情報を部門を横断して即時に共有し、リコール実施を前提に内容把握や原因分析、対策検討の体制を整備しており、リコール実施の可否を社外有識者にも確認する仕組みを導入している。

❑ 自社展示である「失敗からの学び」による過去の教訓の伝承

製品事故の展示を行い、入社時や昇進時等で見学を義務付けることで事故の風化を防止し、従業員に製品安全の重要性を再確認させている。



3. 柏木工株式会社

📢 受賞理由

☑ 木材の特性を踏まえた自社独自の基準設定と接合技術の確立

天然素材の木材の強度のばらつきを考慮して自社基準で節の大きさや数等の許容範囲を設定し、それに沿ったものを選定・使用している。また、独自接合技術の「S字フィンガージョイント」により製品破損による事故を未然に防止。

☑ 運送会社への徹底指導を通じた輸送中の衝撃による事故の防止

過去の製品事故データから輸送中の衝撃が主な要因だと捉え、運送会社や設置業者に対して、留意点を記載した冊子を配布している。また、配送や納品現場を訪問し、工程の確認を通じて改善要望するといった教育指導も実施している。

☑ 業界団体をリードした製品安全文化の構築への取組

飛騨木工連合会の会員企業として、工場見学を通じて地元小学生への製品の正しい使い方の周知や、木材や塗料等の安全性を含む同連合会独自の認証基準の策定を主導している。

📢 注目情報！ 工場見学を通して地元の小学生に製品の正しい使い方を周知

★ 地元小学生向けの工場見学

過去30年以上に渡って、社会見学の一環として優先的に地元の小学生を自社の工場見学へ受け入れている。工場見学では、子どもたちに製造過程を見てもらい、製品の安全性や機能について学ぶ機会を提供しており、この取組により、製品を長く安全に使用していただくための正しい使い方を広めるとともに、将来を担う世代に対して製品安全の重要性を理解していただいております。製品安全文化の構築に大いに貢献している。



出典先：https://www.kashiwa.gr.jp/topics/ps_award_2024/

4. 日進医療器株式会社

📢 受賞理由

☑ ユーザー目線に基づいた製品開発

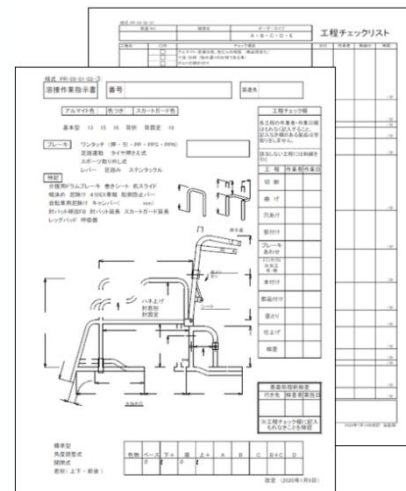
新製品の開発段階で、民間規格及び自社独自の試験を実施。社内の車椅子利用者による試作品検証を通じて、ユーザー目線の課題を設計部門にフィードバックする製品開発体制を整備している。

☑ 自社独自のチェックリストへの知見の集約

オーダーメイド製品において個々の顧客からの要望を製品として具現化する過程で生じた課題をチェックリストに集約し、以降の製品開発に役立てる仕組みを整備している。

☑ 製品事故や不具合情報の全社的共有

販売店での製品事故や不具合情報を社内基幹システムに登録して共有し、担当部署に限らず全ての関係者が安全な製品づくりに貢献している。



5. アール・ビー・コントロールズ株式会社

📢 受賞理由

☑ 部品特性を踏まえた製品安全を実現する多重の対策の実施

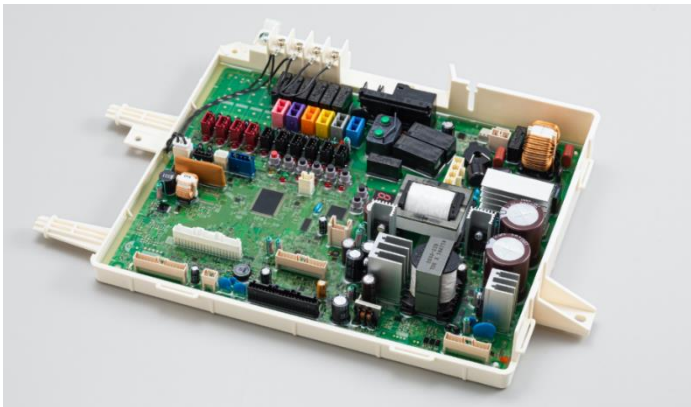
ガス燃焼機器の電子制御部品に求められる高度な品質と安全性を実現するため、電子部品故障時の安全性のFMEAでの評価、マイコンの動作異常を想定してソフトウェアによる安全を担保する仕組みの標準設計書での規定など、多重の対策を講じている。

☑ 「べからず集」への過去トラブルの集約化と再発防止

過去に発生したトラブルの内容や原因、対策を「技術問題点反映チェックシート（べからず集）」に集約し、製品の開発・設計段階でこれに照らして同様の誤りや見落としなどがいないかを確認することで、網羅的な再発防止策につなげている。

☑ 製品安全の知識および知識の浸透に向けた教育プログラム

製品安全の重要性や関連法令等について学ぶ階層別の教育プログラムや、設計に必要な知識や技術の標準化をねらいとし配属後2年間をかけて受講する設計者向けの教育プログラムを整備している。



出典先：<https://www.rbcontrols.co.jp/>

